

平成30年度

# 施政方針

平成30年2月21日

小金井市長

西岡真一郎

# 目 次

1 はじめに .....	1
2 平成30年度予算の概要と市政運営の基本理念 .....	2
3 市民と一緒に未来をつくる基本政策 .....	4
4 むすび .....	12

## 1 はじめに

平成30年第1回市議会定例会の開会に当たり、平成30年度の市政運営方針につきまして、所信を申し述べ、市民の皆様及び市議会議員各位の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

はじめに、可燃ごみの処理について御礼を申し上げます。市政の最優先課題である可燃ごみの処理につきましては、日野市の御理解の下、国分寺市、小金井市の3団体を構成市とする浅川清流環境組合において、昨年11月から日野市内にて新可燃ごみ処理施設の建築工事を開始し、平成32年4月の本格稼働を目指し事業を進めております。本市といたしましては、共同処理が円滑に進むよう与えられた役割の重大さを認識し、誠実に責任を果たすべく全力を尽くしてまいり所存です。新施設周辺にお住まいの皆様を始めとした日野市民の皆様及び関係者の皆様へ深く感謝を申し上げます。

また、この間、長年にわたり、本市の可燃ごみの処理に係る御支援に対しまして、御理解と御協力をいただいている全ての施設周辺にお住まいの皆様及び多摩地域の各団体や東京都など関係者の皆様に心から感謝を申し上げるとともに、新施設が稼働するまでの間、引き続き、本市から発生する可燃ごみの全量の御支援をいただけるよう全力で取り組んでまいります。

あわせて、廃棄物の最終処分場の運営について、多大なる御理解と御協力をいただいている日の出町の皆様に心より感謝を申し上げます。

市民の皆様におかれましては、御支援をいただいている施設周辺にお住まいの皆様及び関係者の皆様の御負担を少しでも軽減するため、引き続き、ごみの減量及び資源化の推進に取り組んでいただくようお願いいたします。

さて、昨年1年を振り返りますと、米国や韓国に新たな大統領が就任し、世界中がその動向に注目することとなりました。我が国への影響も少なくなく、日本も国際社会の一員として、その責務を果たしていかなければならないものと考えております。とりわけ、北朝鮮が行った度重なるミサイルの発射や核実験の強行は、断じて容認できるものではありません。平和を希求する全ての人々の想いととともに、私にできる精一杯の行動を続けてまいりたいと思います。

国内におきましては、昨年10月の衆議院議員選挙の結果や、天皇陛下の御退位が決定されたことなどが記憶に新しいところであります。しかしながら、私が思いを馳せますのは、各地で発生した自然災害の恐ろしさであります。特に、昨年7月に発生した九州北部豪雨では多くの被害が発生いたしました。最近では報道などで目にすることも少なくなりましたが、今なお、避難所での生活を強いられている方々や電気・

水道といったライフラインが復旧していない地域も数多くあるものと伺っております。厳しい生活を余儀なくされている皆様に関心をお見舞いを申し上げますとともに、本市においても災害時への備えに万全を期してまいりたいと思います。

また、市政を振り返りますと、私が市民の皆様から御信任をいただき、市長という重責を託されて以来、早2年の歳月が流れました。この間、本市が将来にわたり発展を続けるため、「今、為すべきことは何か」を自らに問いかけ、市政運営に当たってまいりました。厳しい決断を下さねばならないことも多くございましたが、その折、常に考えましたことは、小金井市の未来であります。今なお、市政には大きな課題が山積しておりますが、現在、そして本市の未来にとって「最良の選択」とは何なのかということ念頭に熟慮を重ね、決断の後には、逡巡することなく行動することを改めて市民の皆様にお約束申し上げ、今後も本市が直面する困難な課題に正面から取り組み、第4次基本構想の将来像である「みどりが萌える・子どもが育つ・きずなを結ぶ 小金井市」の実現に向け、全力で市政運営に当たってまいります。

市長就任以来、私は一貫して「誇りの持てる小金井」、「住み続けたいと願われる小金井」、「市民力が結集された小金井」の実現を目指すと申し上げてまいりました。現在もこの志はいささかも変わってはございません。「市民一人ひとりが大切にされ、真の幸せを実感できるまち小金井」を創り上げ、多くの困難があろうとも、明るい未来を信じ、力強く歩んでまいります。

## 2 平成30年度予算の概要と市政運営の基本理念

平成30年度予算の概要及び市政運営の基本理念について、申し上げます。

平成30年度予算編成は、国及び東京都における経済財政の現状と地方財政の動向や本市の財政状況を踏まえ、市民目線の改革である「小金井市行財政改革プラン2020」及び次世代に責任を果たす「公共施設マネジメント」の視点から行政経営資源を有効活用することを念頭に編成いたしました。

この間、第4次基本構想・後期基本計画の財政的裏付けとなります中期財政計画、直近の状況や変動要因等を踏まえた実施計画を策定の上、今後10年間の視野に入れた財政見通しを策定するなど、計画的な予算編成を行ってまいりましたが、本市の財政状況は厳しさを増しつつあるとの認識であります。このため、あらゆる経費の削減に努めつつ、全ての事業において最少の経費で最大の効果を得られるよう、将来を見据え新たな視点で検討を行ったほか、より一層の財源確保に努めながら国及び東京都の動向を注視し、また、市議会での審議結果や監査委員の審査意見等を真摯に受け止

め、より実践的に反映するよう努めてきたところであります。この結果、平成30年度予算は、武蔵小金井駅周辺のまちづくり事業が大きな節目を迎えるほか、子育て支援施策の拡充などにより市制施行以来最大規模となる一般会計440億5,800万円、前年度対比40億7,600万円、10.2%の増、4つの特別会計を合わせた全会計では667億7,927万5千円で、前年度対比25億847万3千円、3.9%の増となりました。詳しくは、本定例会に御提案申し上げております各会計別予算案の中で御説明申し上げます。

続いて、私が市政運営に臨む4つの基本理念についてであります。

「市民と行政が共有するグランドデザインづくり」につきましては、将来の小金井市のあるべき姿やまちとしての将来像を、広く長期的視野に立ち、市民協働の観点から、多くの市民の皆様と作り上げていくべきものと考えております。市長就任以来、小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会との意見交換のほか、市民と市長の座談会、町会・自治会長会議のブロック別開催、庁内各課と行った市長と職場の懇談などの「対話」を行ってまいりましたので、平成30年度においては、市制施行60周年という節目の中で、「未来の小金井市」を市民の皆様とともにイメージし、平成33年度から始める次期基本構想につながるものとして、アンケートやワークショップ等を実施しながら、市民参加により「小金井グランドデザイン」を描いてまいります。

続きまして、「市民サービスと住民福祉を向上させるための真の行財政改革」につきましては、現在も本市の人口は微増傾向にございますが、少子高齢社会の先を見据え、持続可能な財政運営と市民サービスの向上を目的に、「選ばれるまち」を目指す「小金井市行財政改革プラン2020」及び「アクションプラン2020」を取りまとめました。平成30年度は、このアクションプランに基づく「行財政改革実行の1年」と位置付け、私自身が全ての職員の先頭に立ち「全職員による本気の改革」を進めてまいる決意です。

また、公共施設等の更新につきましては、公共施設マネジメントの3つの基本原則である、総量の抑制、PPPの活用、保有資産の有効活用を基本に、将来の更新費用及び維持管理費の縮減に努めることを基本目標とする「公共施設等総合管理計画」を取りまとめ、各施設の計画的な施設更新について、基本方針をお示ししているところです。今後につきましては、公共施設の最適化、マネジメントサイクルの構築、管理運営の効率化等を段階的に進めるためにも全庁的な理解や意識の浸透に努めてまいります。

さらに、本市の長年の課題であるとともに私の最大の目標であり、公約でもある「庁舎問題の解決」につきましては、新庁舎及び（仮称）新福祉会館の竣工を平成33年度とすることを目標として掲げ、積極的に庁舎建設基金への積立てを行い、厳しい財政状況の中にあっても実現性を高める取組を進めてまいりました。また、用地の測量や地歴調査、土壌汚染調査、執務環境調査などに取り組む一方、市民参加の視点から、庁舎建設予定地活用市民ワークショップや、（仮称）新福祉会館建設基本計画市民検討委員会を通じて、様々な御意見をいただいております。今後、市議会の御議論等を踏まえ、施設建設を進めてまいります。なお、今後の市政における基幹的施設として整備し、最大限に用地を活用するという視点で検討しているところでございますが、当初予算として御審査をお願いすべきところ、補正予算として提案させていただきたく準備を進めており、市民の皆様及び市議会議員各位の御理解、御協力をいただきながら一日も早く円滑な事業の推進に向け、全力で取り組んでまいります。

「駅周辺のまちづくりの推進」に係る取組につきましては、武蔵小金井駅南口第2地区第一種市街地再開発事業が大きく動き出し、昨年2月から施行地区内の解体工事を開始し、7月には本体工事に着手いたしました。現在も再開発組合が主体となって円滑に工事が進められており、平成32年5月の完成に向け安全・安心を第一に事業の進捗を目指すとともに、同駅北口駅前地区に関しましても魅力あるまちづくりの実現に向け必要な支援を行うなど、引き続き駅周辺のまちづくりを進めてまいります。

東小金井駅北口土地区画整理事業につきましては、東部地区の中心にふさわしい街並み形成のために事業を推進しております。駅前広場の概成を始め、事業地内の変化を実感していただけるようになってまいりました。これから事業終盤に当たり、工程等の再精査、事業計画の変更を行い、地権者の皆様の御理解を賜りながら、地域の魅力と活力に満ちたまちづくりのため、不断の努力を続けてまいります。

JR中央本線連続立体交差化事業を契機とした本市のまちづくりにつきましては、市政の悲願でもありと考えており、必ずや成し遂げねばなりません。これまでの経過を踏まえ、市民の皆様の利益と利便性を考慮しながら、福祉、環境、防災、安全の視点を欠くことなく、持続可能なまちづくりを、引き続き力強く前進させてまいります。

### 3 市民と一緒に未来をつくる基本政策

それでは、私が掲げた7つの基本政策に沿いまして、平成30年度に予定する取組等について申し上げます。

はじめに、「子育て環境日本一の小金井」についてであります。

本市の人口は、昨年10月に市制施行以来、初めて12万人を突破したところですが、我が国全体を見渡すと、急激な人口減少は避けて通ることのできない重要な問題であると考えます。少子高齢化、生産年齢人口の減少といった根本的な問題に歯止めをかけることが難しい社会の中にあっても、持続可能な小金井市を目指すためには、子どもを産み、育て、子育てに関わる全ての方々を支援する、まち全体の総合力を高め「子育て環境日本一」の実現に向けて、全力で取り組む必要がございます。これまでも待機児童の解消対策や学童保育事業の充実などに努めてまいりましたが、今なお市民の皆様からは、子育て施策全般の拡充を進めてほしい、との切実な声を耳にしております。このため、平成30年度も引き続き、これまでの取組を発展・充実させ、妊娠期から子育て期間まで切れ目のない支援を行ってまいります。

待機児童の解消は、急務であるとの認識の下、これまでも認可保育施設の開設などに努めてまいりましたが、大変残念ながら昨年の4月時点において待機児童の解消には至りませんでした。本年4月に向けては、更なる取組といたしまして新規保育施設4園の開設や既存園の定員拡充など、今までにも増して保育定員の確保を進め、引き続き待機児童ゼロに向けた施策を積極的に展開してまいります。

加えて、国や東京都からの補助制度を活用し、民間の保育園で勤務される保育士の処遇の改善や市内で開催されるイベント等におけるベビーテントの貸出しなどに取り組みます。また、公立保育園の民営化につきましては、市内で保育や幼児教育に携わる多くの方々の御理解、御協力をいただきながら、関係者の皆様と信頼関係の構築を図り、円滑に運営形態の移行ができるよう、より一層丁寧に準備を進めてまいります。

学童保育事業につきましては、これまでの全入措置を堅持しつつ、あかね学童保育所の大規模化に向けた取組を進めます。また、小金井市学童保育所業務委託評価報告書に記載された改善策を踏まえ、市民サービスの効率的・効果的な提供を図るため、平成30年4月からは、さわらび学童保育所及びみなみ学童保育所の2施設について学童保育業務の民間委託を実施することとし、円滑な移行となるよう最大限の配慮を行ってまいります。さらに、放課後における子どもの居場所を充実させるため、従前の取組から深化を図り、「小金井市放課後子ども総合プラン協議会」を設置して、一体型の放課後子どもプランを推進してまいります。

続きまして、学校教育につきましては、近年、情報化やグローバル化といった社会の変化は加速度を増し、これまでのように「変化の激しい時代」から「予測困難な時代」へ変遷するものと考えております。このような厳しい時代を生き抜くためには、子どもたち一人一人が未来の創り手であるという視点が重要であります。このため、本

市の学校教育では、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」という点に着目し、将来幅広い分野で活躍できる能力を身に付けるために、引き続き「生きる力」を育む教育を実践することが必要であると考えております。平成30年度においては、昨年3月に公示された次期学習指導要領を踏まえ校務用パソコンの更新やICT機器の整備等を計画的に進めるとともに、小学校における外国語教育の授業数を段階的に増加させながら、引き続き外国人による英語指導を実施いたします。また、特別な支援を必要とする子どもたちの学校生活全般の活動を支援するため、特別支援教育支援員を増員するとともに、特色ある学校教育の一層の充実を図ってまいります。

本市の教育施策は、これまでも長く市民の皆様に支えられ、地域に根差した教育環境を築いてまいりました。このすばらしい伝統を途絶えさせることなく、時代が要請する質的転換や「恩師に出会える学校」という視点を大切にしながら、教育の質の向上を強く進めてまいります。

このほか、学校施設においては特別教室等へのエアコン設置工事を計画的に実施するとともに非構造部材の耐震化を進め、震災時に事故が起こりやすい屋内運動場の天井等落下防止対策を加えた改修工事を継続して実施するなど、学習の場、生活の場としてふさわしい環境の整備を行い、全ての子どもたちに笑顔があふれるまちづくりを進めてまいります。

続いて、「健‘幸’長寿・ささえ愛の小金井」についてであります。

国は、新しい福祉の理念として、高齢者、障がいのある人、子どもなど全ての人々が、地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる地域共生社会の実現を目指すとしております。このような状況の中、本市においても、少子高齢化の進行に伴い、65歳以上の年齢層は増加傾向にあり、高齢者の皆様が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることのできる地域社会の実現は市民共通の願いでもあり、間もなく策定が完了する「(仮称)第2期小金井市保健福祉総合計画」に基づき、各種の計画を相互に関連させながら地域共生社会の実現を目指してまいります。

高齢者福祉につきましては、医療、介護、介護予防、住まい、自立した日常生活の支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムの更なる推進・深化を図るべく、生きがいのある充実した生活の支援、地域で自立して暮らし続ける仕組みづくり、地域の支え合いの輪の拡充に引き続き取り組んでまいります。

また、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯が増加することで生活支援に関するサービ



スの需要が高まることを見据え、市認定ヘルパー制度の推進を図ります。加えて、本年5月には、18年ぶりに市内3つ目となる待望の特別養護老人ホームの開設が予定されておりますので、地域に根差した高齢者福祉の拠点の一つとして、運営法人との良好な協力関係を築きつつ、その活躍に期待したいと考えております。

続いて、障がい者福祉につきましては、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が平成28年4月に施行されましたところ、地域自立支援協議会の皆様のお力添えをいただき、早期に「障害のある人もない人も共に学び共に生きる社会を目指す小金井市条例」の制定を目指してまいります。その他、障がいのある方々に対する理解促進を図るため、パラリンピック選手などの講師をお招きした、魅力ある講義を開催するなど、差別の解消に向けた取組を拡充してまいります。

福祉・健康に関する各種の施策につきましては、活力あるまちづくりの源と考えております。したがって、様々な制度の枠組みを超え、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず全ての市民の皆様が、自分らしく安心して暮らせる地域を目指し医師会や歯科医師会、薬剤師会に加え、地域包括支援センターや福祉サービス事業者など様々な主体と密接に連携し「健‘幸’長寿・ささえ愛の小金井」を実現すべく、これからも着実に歩みを進めてまいります。

続いて、「歩いて楽しいにぎわうまち小金井」についてであります。

小金井市には、豊かな自然や歴史ある建造物など魅力ある観光資源がまだまだたくさんございます。引き続き「あるものさがし」そして「あるものみがき」の視点を大切に、小金井市商工会や商店会、小金井市観光まちおこし協会等と連携しながら、これらの資源を生かした事業を展開するなど、地域力を高め、交流人口を増加させる取組に力を注ぎ、市内に新たなにぎわいを創出したいと考えております。

市制施行60周年記念事業につきましては、本年1月にロゴマークとキャッチコピーを選定し、市民の皆様から好評をいただいております。10月7日に予定されております小金井 宮地楽器ホールで行う記念式典を中心として、節目の年にふさわしく記憶に残る事業を実施してまいります。

本市の魅力発信にもつながる取組につきましては、江戸東京の「衣・食・住」をキーワードとして新たな都市型観光の魅力を創出する「江戸東京でおもてなし事業」を継続して実施するとともに、市立はげの森美術館においては、市町村立美術館活性化事業助成を活用し他県に所在する公立美術館との共同巡回展を開催いたします。この企画展は、日本の洋画界を代表する画家たちが日本の美しい風景を描いた作品を鑑賞

できる良い機会となりますので、多くの市民の皆様に御覧いただきたいと思っております。

また、本年1月には、n o n o w a 武蔵小金井WESTのイベントスペースにおいて「まちなかアニメ原画展」が開催されました。この取組は、アニメを活用した「まちおこし」を目指す市民の方からの提案をきっかけとして、小金井市観光まちおこし協会が市内のアニメーション会社等、関係者間のコーディネートを行い実現したものです。期間中には、私も現地を訪れ、大変盛況であった様子を拝見させていただきました。今後、協議会を本格的に立ち上げ、アニメを活用したイベントを検討すると聞いておりますので、シティプロモーションや市内の商業活性化につながる取組として期待したいと思います。さらに、本年4月には「n o n o w a 武蔵小金井ムサコガーデン」がオープンし、近隣には家族で楽しめる公園の整備も予定されておりますので、新たなにぎわいがまた一つ生まれることを大変喜ばしく思っております。

一方で、「歩いて楽しいにぎわうまち小金井」を実現するためには、駅周辺を中心としたまちづくりを進めるとともに、市民生活を根幹から支えるライフラインを整備することは非常に重要だと考えます。大規模災害が発生した場合に備え、特定緊急輸送道路の沿道建築物の耐震診断は全て完了しておりますので、今後は、所有者の方々に対し耐震補強設計、耐震改修などに関する知識の普及啓発や助成制度等に係る情報提供に努めるほか、電線地中化に向けてチャレンジ路線の選定に着手するなど、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

他方、市内から発生する廃棄物の処理につきましては、一日たりとも滞ることがあってはならず、基礎的自治体としての使命であるといっても過言ではございません。本市においては、日野市・国分寺市と共同で設立した浅川清流環境組合において安定した可燃ごみ処理の準備を進めており、資源循環型社会の形成に資するため、平成29年度末までに「清掃関連施設整備基本計画」を策定し、平成30年度には、同計画に基づき、施設整備に向けた支援業務の発注や予定地の測量業務などを実施する予定です。不燃ごみ、粗大ごみ、資源物の処理について、中間処理場の老朽化や暫定稼働している空き缶・古紙等処理場などの既存施設の整理、二枚橋焼却場跡地の活用等を含む再配置につきましては、これまで同様に地元の方々への感謝を忘れず、慎重かつ丁寧な協議を進め、安定的な適正処理の維持・継続に努めてまいります。

続いて、「地域がいのちを守るまち小金井」についてであります。

はじめに、昼夜を問わず地域の防災リーダーとして、市民の生命、財産を守るために幅広く活動をしていただいている消防団員の方々とその御家族の皆様に、心から感

謝を申し上げます。また、消防団活動は地域防災の要であり、日々の皆様の御努力があるからこそ安全・安心のまちづくりを進めることが可能になるものと考えており、消防団活動を支える全ての皆様に、この場をお借りして感謝を申し上げます。

一方、今日、いつ発生してもおかしくないと言われる「多摩直下地震」や「立川断層帯地震」等、大規模災害の発生に対しては市民の皆様の不安が増しており、防災力の向上が求められています。今後も、「自助」「共助」「公助」の精神に基づき、災害に強いまちづくりの実現を目指し、消防署を始めとする各防災関係機関との連携の強化や自主防災組織を始めとした地域住民の防災力の向上に努めるほか、平成29年6月に策定された「東京都災害廃棄物処理計画」を踏まえ、平成30年度には「小金井市災害廃棄物処理計画」を策定してまいります。

また、昨今社会問題となっている空家等への対応につきましては、「小金井市空家等対策計画」を策定し、防災、衛生、景観など市内の生活環境の保全を図るための取組を進めてまいります。

他方、市内の犯罪発生件数につきましては、近年減少傾向にあるものの、侵入盗や自転車盗といった犯罪の発生や、振り込め詐欺等の被害が後を絶たない状況にあります。本年は、平成28年度に見直しを行った小金井市防犯指針に基づく取組を進めるとともに、引き続き「こきんちゃんあいさつ運動」や自動通話録音機の無料貸与に取り組むほか、市民防犯講習会の開催など、行政、市民、事業者、警察署等が相互の連携を深め、円滑で効果的な防犯協力体制づくりを目指してまいります。

続いて、「湧き水と緑・桜を守るまち小金井」についてであります。

本年元日、私は都立武蔵野公園で新年を迎え、雲一つない澄んだ空に、初日の出となる御来光が輝く瞬間に立ち会うことができました。本市は、今年で市制施行60周年という大きな節目を迎え、この間、その魅力は不変のものであったと私は考えております。時代とともに街並みは変わっていきませんが、みどりと都市が高度に調和するまちづくりは、市制施行以来、一貫して市民の皆様とともに創り上げてきたかけがえのない財産であります。「長きにわたり築き上げてきた本市の特長を、今を生きる私たちが、次の世代へとしっかりと引き継いでいかなければならぬ」との考えは、昨年と同様、変わるものではございません。

平成30年度においては、「小金井市緑の基本計画」の更なる推進のために、本市における今後の公園等の在り方などをまとめた「公園等整備基本方針」を策定し、本市に相応しい公園のコンセプトや、低未利用公園等の在り方などを整理する中で、新

たな可能性などを検討し、小金井らしいみどりをより一層、守り育ててまいりたいと思います。

さらに、近年、閉園や休園による減少が顕著な市民農園につきましては、平成28年度から利用を中止していた、くりやま市民農園を平成30年4月から再開するとともに、新たに28区画を有する（仮称）ぬくいみなみ市民農園を早期に開設するため、必要な準備を進めてまいりたいと考えております。このほかにも、学校給食における小金井産野菜の使用拡大などにより、都市農業の保全に資する取組を重層的に進めてまいります。

続いて、「スポーツ・文化都市小金井」についてであります。

いよいよ東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催まで、残り2年余りとなりました。市では、これまでもフラッグツアーの開催などを通じて、開催都市の一員として機運醸成に努めてきたところでございます。平成30年度におきましては、オリンピックを本市に招聘した競技クリニックの開催や、市民まつりの会場内にパラリンピックスポーツの紹介ブースを設置するなど、スポーツの力と価値を改めて見直す契機とし、本市にとりまして大会後のレガシーとなるよう努めてまいります。また、市制施行60周年記念事業では、平成30年10月に都立小金井公園において「特別巡回ラジオ体操・みんなの体操」の実施を予定しておりますので、市民の皆様にとりまして、生活習慣病の予防や健康を保持・増進するためのきっかけ作りとなることを期待しております。さらに、市内スポーツ施設の環境整備につきましては、総合体育館及び栗山公園健康運動センターの設備に係る設計等を実施し、スポーツ人口の拡大に向け、安全・安心を第一に計画的な施設整備を進めてまいります。

文化都市の形成に向けては、「教育・文化の振興に関する総合的施策の大綱」を尊重しつつ、「第3次生涯学習推進計画」に基づき、生涯学習社会の形成による豊かな地域づくりを進めてまいります。さらに、「芸術文化振興計画」の理念に基づき、小金井 宮地楽器ホールや市立はげの森美術館といった文化拠点を大いに活用し、市民の皆様がそれぞれの感性で芸術文化を楽しむことができる事業を展開するなど、小金井らしい市民文化の「輪」を広げ、魅力あるまちづくりの実現を図ってまいります。

なお、昭和53年に締結した三宅村と本市との友好都市盟約は、平成30年度で40周年を迎えます。例年、青少年自然・文化体験交流事業により、三宅村の児童と本市の児童が交流を行うとともに、小金井市三宅島友好協会を通じて人的交流を推進してまいりましたが、節目となる平成30年度には記念碑の案内板の設置などが予定さ

れております。

続いて、「新しい自治体経営に挑む小金井」についてであります。

自治体の経営環境は、年々厳しさを増しています。その中であって、私は、市長就任以来、本市を「誇りの持てる、住み続けたいと願われる、市民の力や地域の力がもっと活かされる小金井」を実現したいと申し上げてまいりました。そのためには、財政健全化と市役所改革の推進が不可欠であります。このため、小金井市行財政改革市民会議の答申を踏まえ、平成29年4月に「小金井市行財政改革プラン2020」を、9月には「アクションプラン2020」を策定いたしました。平成30年度は、このアクションプランに基づく「行財政改革実行の1年」であります。改革項目の進行管理を強化し、取組の一つ一つをしっかりと実行・検証し、効果的な改善を進めてまいります。

具体的には、財政健全化に向け、引き続き市税収納率の維持、向上に努め、公民連携アウトソーシング基本方針の策定や、受益者負担に係る基準の見直し等を進めてまいります。また、市役所改革では、「改善改革運動」の試行により、職員の意識改革を進め、小金井市行財政改革市民会議による進捗チェックと公表に取り組んでまいります。

また、常々、私は市政運営の基本を「対話」として申し上げてまいりました。このため、職員には積極的に地域に出て様々な情報を発信しつつ、市民の皆様の率直な声に耳を傾け、その声を市政に反映できるよう最大限の努力を行うことを求めています。さらに、市民の皆様と接する最前線の各種窓口では、「親切、丁寧、笑顔」を心がけ、全庁的にコミュニケーション能力・コーディネート能力・コラボレーション能力の向上を行うよう指示してまいりました。今後も、東京都などの行政機関や民間企業との人事交流を実施するほか、平成29年度中には、新たに2つの教育機関と包括的な連携協定を締結することができましたので、インターンシップの受入れや各種の事業においても若い力を積極的に活かしてまいりたいと考えております。

加えて、男女共同参画社会実現への取組につきましては、「第5次男女共同参画行動計画」の中で人権尊重とワーク・ライフ・バランスを軸とする男女共同参画の実現を目指すことを基本理念としてございます。行動計画に掲げた事業の着実な推進を図るとともに、平成29年度においては、私を含む理事者・部長職者全員がイクボス宣言を行い、市内のワーク・ライフ・バランスに対する理解促進に努め、その効果が広く市内の各事業所へ波及するよう、男女共同参画をテーマとしたシンポジウムの開催

などを行ってまいります。

#### 4 むすび

新年恒例の「歌会始の儀」において、天皇陛下は中学時代の思い出につながる歌をお詠みになられました。当時、陛下がお過ごしになられた本市の情景を思いに込めた歌を取り上げていただいたことは、一市民としても市長としても大変誇らしく、今後、小金井市の魅力や素晴らしさを守り育て、次世代に引き継がなければならないと改めて深く胸に刻んだところであります。

平成30年10月、本市は市制施行60周年を迎えます。この歴史的な節目の年を市民の皆様と共に祝い、小金井市第4次基本構想に掲げる将来像「みどりが萌える・子どもが育つ・きずなを結ぶ 小金井市」から、次の時代を展望することを期して、各種の市制施行60周年事業を実施し、小金井市の更なる発展と活性化へ向かう1年としたいと考えております。

昭和33年、人口約4万人から始まった市政の歴史は、大きな転換点を迎えようとしています。その時々苦勞があり、先人達は必死の思いでその壁を乗り越えられたものと思います。私は、脈々と続く市政の中で、当たり前なことを当たり前のように続けていく厳しさ、さらに高みを目指し、挑戦し続けることこそが真の勇気なのだと考えます。

今後、我々が直面するであろう様々な課題は、これまでに誰も経験したことのない大きなものばかりであり、広い視野を持たねば前進することはもとより現状維持すらできません。

厳しい社会経済情勢の中、市政の長年の課題に終止符を打ち、これからも「選ばれるまち」であるためには、これまで以上に勇気と決断を持ち、全庁一丸となって市政運営に臨み、次世代への責任をしっかりと果たし、今後も市民サービスの向上に努めていく決意であります。

市民の皆様及び市議会議員各位には、より一層の御理解、御協力をお願いし、本定例会に提案申し上げます平成30年度予算案を始め、各種案件につきまして、十分御精査の上、御議決いただきますようお願い申し上げます、私の施政方針とさせていただきます。